「社会健康医学」基本構想検討委員会（第３回）会議録（議事要旨）

日　　時	平成28年10月24日（月）午後２時00分から午後３時30分まで
場　　所	ホテルアソシア静岡15階「ベラビスタ」
出 席 者 職・氏名	出席委員：６名（敬称略） 本庶佑、田中一成、宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本敏博 ※宮田委員はwebによる遠隔参加 欠席委員：５名（敬称略） 佐古伊康、鶴田憲一、徳永宏司、中山健夫、山本清二 事務局 健康福祉部長　山口重則 健康福祉部部長代理　渡瀬浩 健康福祉部理事　壁下敏弘 健康福祉部管理局長　鈴木 宙志　ほか健康福祉部職員
議　　題	１　静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目について ２　社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方について ３　その他
配布資料	議事次第 「社会健康医学」基本構想検討委員会委員名簿 資料１　「社会健康医学」基本構想検討委員会（第３回）について 資料２　静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目 資料３　社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方 資料４　保健医療分野におけるＩＣＴ活用推進懇談会提言（概要） （宮田裕章委員説明資料） 資料５　健康寿命の更なる延伸のために疫学はなぜ重要か （宮地良樹委員説明資料） 参考資料１　「社会健康医学」基本構想検討委員会 これまでの論点整理 参考資料２　「静岡県の寿命をのばそう！シンポジウム」について ※その他、資料として、宮田委員から「ＩＣＴを活用した『次世代保健医療システム』の構築に向けて」（保健医療分野におけるＩＣＴ活用推進懇談会　提言）の提供があった。

１　審議事項

(1) 社会健康医学研究のための拠点について
(2) 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方について
(3) まとめ

２　審議内容

山口健康福祉部長から、第２回のまとめ、「静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目」及び「社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方」について、資料１～３に基づき説明し、宮田裕章委員から「保健医療分野におけるＩＣＴ活用推進懇談会提言（概要）」、宮地良樹委員から「健康寿命の更なる延伸の

ために疫学はなぜ重要か」について、資料４・５に基づき説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目について

ア　医療ビッグデータの活用（健康情報分野、医療統計分野など）

・ビッグデータの活用によるイノベーション（より科学的な見える化等による健康づくりなど）

・次世代型保健医療システム（静岡型）の構築（ICTを活用した遠隔診療など）

・地域や全国の健康・医療・介護ネットワークにより、切れ目ない診療やケアが受けられる。

イ　健康長寿の要因分析（医療疫学分野、コホート研究など）

・健康寿命の延伸を目指し、要介護状態を招く疾病を減らすには、疫学的方法論の活用が必須（疾病のリスク因子、健康状態を定量的に評価、既存治療法の科学的検証）。

・予防医療に取り組む際、地域住民を対象とした疫学的検証により、優先順位を決めることができる。

ウ　疾病要因の分析（ゲノム・遺伝医療分野、コホート研究など）

・静岡県特有の疾病を分析するには、集団の中の県民を１人ひとりを見ながら、遺伝子レベルで捉えていく、遺伝的な要因に着目した取組が必要。

(2) 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方について

・大学においても、拠点ができて初めて社会健康医学が浸透した。静岡県においても、拠点を設けてやっていくことが望ましい。

・今の医師は、医学博士ではなくＭＰＨ（公衆衛生学修士）にも魅力を感じる。公衆衛生学を体系的に学べる拠点ができれば、医師や看護師、薬剤師など医療専門職のモチベーションが上がり、静岡県の医療水準の向上につながる。

・社会健康医学の科学的な知見や取組成果を施策へ反映し、県民が病気やケガをしないためにどのような生活をすべきか、広報や啓発につなげていくべき。

(3) まとめ

・健康寿命の更なる延伸のため、①医療ビッグデータ、②疫学、③ゲノムの３つの研究に取り組む。

・医療現場に近いところに社会健康医学の知識を持った人材を集め、医療専門職の社会人教育に取り組む。

・研究と人材育成に取り組む拠点を作り、将来的には大学院レベルのものを目指す。